

全国学力・学習状況調査の結果分析について

令和6年度の全国学力・学習状況調査（以下、全国学調と言う）が返ってきました。今年度の平均正答率の対全国比について、昨年度と比較すると、小学校では国語・算数ともに下降しています。一方、中学校では数学においてやや改善しています。（詳細は大阪市のHPをご覧ください）

Dana[∩]Tex_{～架け橋～} VOL.2では、質問項目における児童生徒一人一人の結果の分析から、新たに見えてきたことについて紹介したいと思います。今後の教育活動の参考にしていただければ幸いです。

ウェルビーイングについて

今回、調査分析グループでは、文部科学省が公表している「令和5年度 全国学力・学習状況調査 ウェルビーイングに関する分析報告書」を参考に、今年度の全国学調の大阪市のデータを活用して、児童生徒のウェルビーイングに影響を与えている要因について分析を行いました。

質問項目のうち、「学校に行くのは楽しいと思いますか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の回答を主観的幸福感と考え、この主観的幸福感を支える要因について、小学生17,018人、中学生12,461人のデータをもとに分析を行いました。

○重回帰分析の結果（重回帰分析については、VOL.1を参考にしてください）

友達関係	小：0.273 中：0.300
教師サポート	小：0.174 中：0.157
自己肯定感	小：0.155 中：0.183
性別	小：0.010 中：0.003
多様性への理解	小：0.009 中：0.007
教科への態度	小：0.009 中：0.006
利他性	小：0.006 中：0.007
健康	小：0.004 中：0.005
社会貢献意識	小：0.003 中：0.004
協働性	小：0.002 中：0.005
自己実現	小：0.002 中：0.002
社会経済的背景	小：-0.004 中：0.004
学校規模	小：0.002 中：-0.002
成績	小：0.0003 中：-0.002

この図は、左にある要因が主観的幸福感にどれくらいの影響を及ぼしているかを数値で示したもので、絶対値が大きいほど影響の度合いが大きいことを示しています。（小は小学生、中は中学生を表す。）

なお、要因の最下段にある「成績」については、小学校でのみ5%水準で有意ではありませんでした。

主観的幸福感

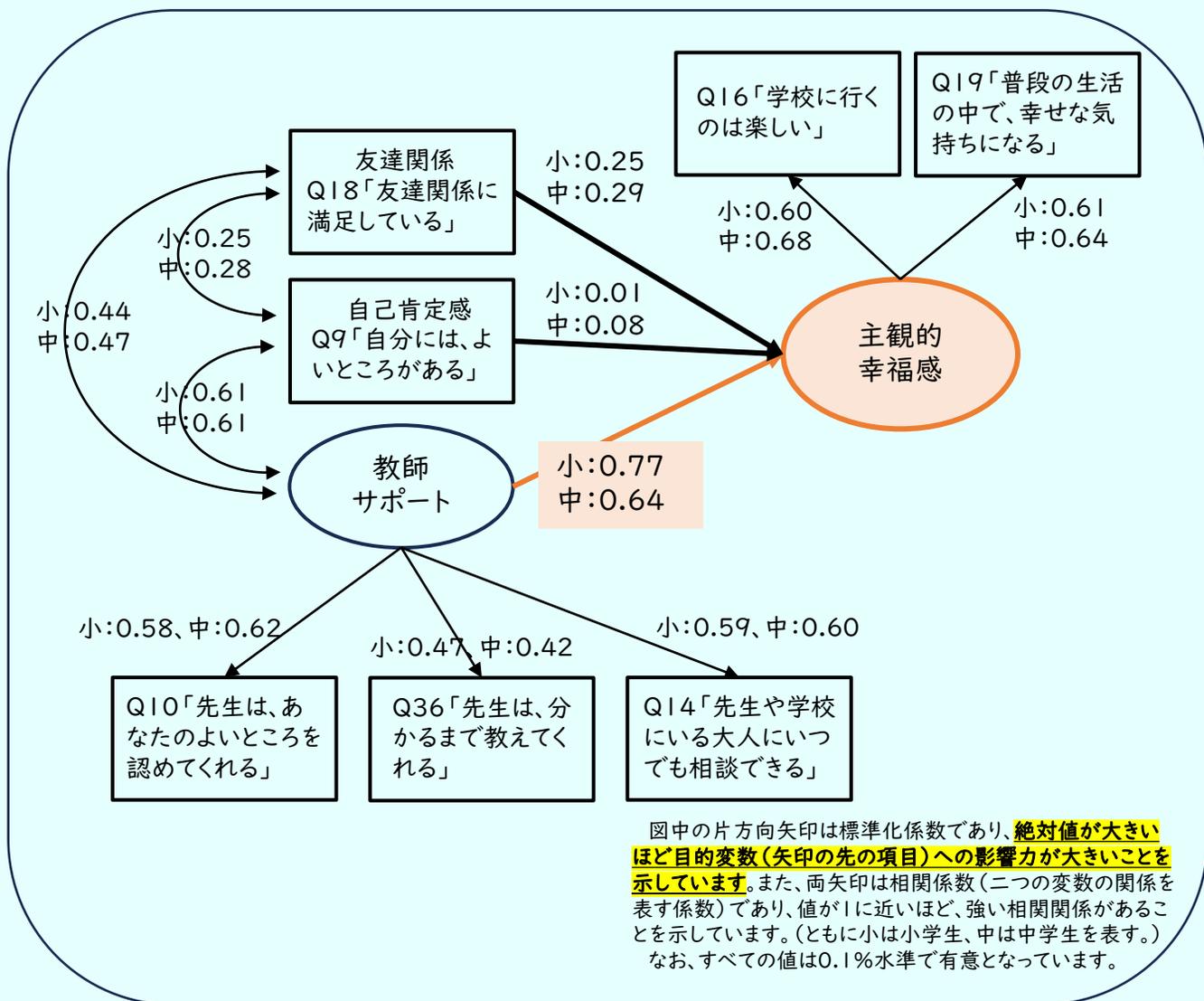
この分析から、「友達関係」「教師サポート」「自己肯定感」の3つが、小中学校ともに「主観的幸福感」に与える影響が大きいことがわかりました。

次に、上記の3つの項目の関係性について、更なる詳細な分析を行いました。⇒ [次ページに続く](#)

○共分散構造分析の結果

主観的幸福感を支える要因について、大きな影響がみられた「友達関係」「教師サポート」「自己肯定感」の3項目について、更なる詳細な分析（共分散構造分析※）を行い、関係性を図示するとともに、関連の大きさについて分析を行いました。

※共分散構造分析とは、互いに関連を持つ複数の要素間の関係性やその程度をモデル化する分析のこと。



学校生活全般での教師のサポートは、自己肯定感や友達との関係性と合わせて児童生徒の主観的幸福感に影響を与えていることがデータ分析から見えてきました。

まとめ

今回は、全国学調の分析結果から、児童生徒質問の回答から見えたウェルビーイングについて紹介しました。このように児童生徒質問からも様々なことが見えてきます。児童生徒への教職員の方々の様々なサポートが、子どもたちの主観的幸福感に高まりにつながっています。教職員の方々の日々の取組に感謝するとともに、教職員の方々のウェルビーイングの向上も大切だと考えます。教職員へのサポート体制を整えるとともに、これからも調査分析グループでは、蓄積された児童生徒一人一人のデータを分析していきます。